

第 79 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：平成 28 年 12 月 16 日（金） 9：30～11：45

場所：奈良商工会議所 4 F 中ホール

出席者：

【委員】 岡崎委員、川池委員、倉橋委員、河本委員、庄田委員、
立川委員（委員長）、舘野委員、谷委員、藤次委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川政策官ほか

議事 1. 淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川）における事業再評価

質疑応答：

1. 淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川）における事業再評価

【紀の川】

河本委員	前回や前々回の委員会で、委員の先生方から出された意見や配慮すべき事項について、この再評価の中ではどのような扱いになっているのか。
河本委員	例えば「事業実施に当たり配慮すべき事項」という形で記載しておく、委員から出された意見が見えるようになるのでは。
事務局	前回の委員会での意見を踏まえて、3月の委員会で進捗点検結果を提示させて頂こうと考えている。 今回はその中から治水事業を取り出して再評価にかけさせていただいており、事業を継続すべきかどうかについてご意見をいただこうと考えている。
河本委員	17 ページの 6 の「コスト縮減や代替案等の可能性」において、「現在の計画での事業進捗に問題がないため、代替案の検討は行わない」と記載されているが、「治水面で問題がないため」等、もう少し限定させた方がよい。
事務局	国が管理する大和川では、環境整備事業が実施されており、環境整備について事業評価が実施されている。県の場合は、治水事業の費用が事業全体の事業費の大部分となっている。
立川委員長	治水事業以外の環境に対する事業を行う、または委員からご指摘いただいたような事項を計画として取り入れ実施する場合、便益の計算にどのように反映するかが難しい。
事務局	資料 1 の 2 ページの「再評価の手法」で、再評価の手法に当たっての視点を記載しており、事業の必要性和進捗の見込み、コスト縮減や代替案等より、事業の継続、あるいは見直し、事業中止の判断についてご意見をいた

	<p>だこうと考えている。</p> <p>委員から頂いた意見については、進捗点検で反映をさせて頂こうと考えている。</p> <p>費用面から事業費が大きく拡大するような環境に配慮した対策の実施は、今現在では困難な状況となっている。</p>
藤次委員	<p>再評価というものは、もともとは公共事業の無駄をなくするという視点から発生しており、経済的な視点が主であり、限りある国の予算とか県の予算を使って実施するにあたってこのまま進捗してもよいかという視点で見るべきと考えている。</p> <p>公共事業の評価としては、安全や事業による効果と費用とのバランス面の視点が主であり、洪水によりどの程度の被害が発生し、被害を防ぐためにどの程度の費用となるか論点となる。再評価では未着手や長期化している事業について、なぜ事業が止まっているのか、止まっているのであれば、そもそも事業が必要かという視点で評価する制度であると認識している。</p>
立川委員長	<p>さまざまな環境に関する調査は、再評価に該当する事業となるのか。</p>
事務局	<p>再評価にあたっては、奈良県公共事業再評価実施要領に準拠して実施する。再評価の目的は、「公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、再評価を実施する」と、「事業採択後一定期間を経過した後も未着工である事業、事業採択後長期間が経過している事業等について、継続するのか、中止するのかを評価する」となっている。</p> <p>環境については、進捗点検シートに整理しようと考えており、本日の再評価は、事務局としてはこの事業を継続するべきか、やめるべきか、あるいはこういう障害があるので別の方法を考えるとかそういうものが中心になっていると考えている。</p>
館野委員	<p>10 ページに事業の整備効果で、「工事完了箇所の流れ能力が向上」と記載されているが、「今後事業を実施することで工事完了箇所において流下能力の向上が見込まれる」とすべき。</p>
館野委員	<p>流下能力が計画高水流量に達していないところでも、工事区間外となっている箇所があるが。</p>
事務局	<p>家屋がなく守るべきものがない箇所である。</p> <p>未来永劫実施しないということではなく、守るべき対象物がある 18 カ所を優先的に工事することを整備計画で位置付けている。</p>
館野委員・堀野委員	<p>16 ページの表があるが、大滝ダムの現況放流可能量の中にグレーの凡例が無い。整備済みの⑰、⑱はどうなっているのか。</p> <p>理解しにくい図表となっている。正しく内容を理解できるように工夫が必要ではないか。</p>

事務局	今、1番と2番も事業を実施中ということで、グレー表示にしている。理解が得られやすいように図表の修正を行う。
川池委員	戦後最大規模の伊勢湾台風時の洪水を安全に流下させることを目指して河川整備を進めると記載されているが、資料1では年平均軽減期待額の算定にあたる計画規模の上限が1/10年となっている。伊勢湾台風の洪水の規模が1/10年ということか。
事務局	紀ノ川の計画規模は概ね1/30年である。 資料1での費用対効果の考え方は、あくまでイメージとして示させていただいている。各河川に応じて計画規模の上限を設定している。
川池委員	資料1の5ページの青丸で囲まれている数値が資料3に記載されていると理解してよいか。
事務局	5ページの青丸の数値が年平均被害軽減期待額であり、これが1年当たりの被害軽減期待額となり、これを整備期間プラス50年積み上げたものが資料3の総便益となっている。
堀野委員	流下能力図に示されている計画高水流量のラインは正しくない。 整備箇所でない流下能力不足箇所では溢れることから、その下流では計画高水流量は流れてこない。
事務局	県の管理している区間は、ほぼ堤防ではなく山付けで、溢れても河川に戻ってくる河川であり、溢れることによる損失はないとして計画高水流量を計算している。
岡崎委員	総事業費の大体半分ほど使用して事業を進捗していることが分かるが、費用に見合う事業が進捗しているのか。
事務局	全体事業費に対して現時点までの投資額の割合を事業費ベースの進捗率として示しており38%となっている。整備総延長に対して現時点までに整備が完了している割合を延長ベースの整備率として示しており36%となっている。投資割合に対して概ね同程度の割合の整備が終わっていることになる。
岡崎委員	全体事業と残事業の費用対効果の数値の差に意味があるのか。
事務局	全体事業のB/Cが1を超えているかで事業の経済性の妥当性を評価する。ただし、残事業で、仮に1を切るようなことがあれば、残りの事業についてコスト削減を図れないか等、事業の見直しを行うことが考えられる。
岡崎委員	11百万円のコスト削減を図ったとあるが、コスト削減を考慮すると、B/Cはさらに上がるのか。
事務局	コスト削減を図った事業費でB/Cを評価している。
河本委員	17ページで、南奈良総合医療センター建設の発生土を有効活用したとあるが、その他の高規格自動車道の建設に伴う発生土の有効活用について記載

	してはどうか。 他の事業からの発生土の有効活用の可能性を検討する等、記載してはどうか。
事務局	今後の工事にあたって他事業と絡み合わせた中で、発生土の有効活用によるコスト削減が図れる可能性が十分考えられることから、他の事業における発生土の有効活用の可能性を検討することを追記する。

【宇陀川】

立川委員長	全体事業の B/C が 1.1 で、残事業の B/C が 5.3 というのは、最初に土地を買うために非常に先にお金がかかったという理解でよいか。
事務局	現時点における事業の投資額が全体事業費の 8 割程度であるのに対して、完成断面で完成している区間が 3 割程度で、残りが暫定的な河川改修状態であり、事業の効果が出ないことから残事業の B/C が大きくなっている。
河本委員	城下町の優れた景観に配慮し、自然石等の活用により落ち着いたものとする記載されているが、前回の議事の内容を見ると「可能な限り」と述べられているが、どの程度の割合で自然石が利用されているか不明である。また、工事が実施され期間が経過しておらず、なじんでいない部分があるが、本当に配慮されているのか気になる。
事務局	なじんでいない部分もあるが、可能な限りで石積護岸を整備することで環境に配慮したものをさせていただいている。
河本委員	10 ページの良好な公共サービスの提供に、被害のリスクを低減するだけではなく、周囲の歴史的環境が形成されると追記してはどうか。
藤次委員	国の治水経済調査マニュアルでは、便益算定にあたって歴史的景観による観光客の増加という項目があるのか。
事務局	費用換算できないことからマニュアルには記載されていない。
立川委員長	環境に配慮して事業を実施していることから、全く環境に触れないというのは疑問が残る。B/C とは切り離れた形にはなるのかもしれないが、治水以外のことも記載してはどうか。
事務局	10 ページの良好な公共サービスの提供に環境に関する内容を追記する。
岡崎委員	県として河川で実施している内容をアピールしていくことで、事業内容をオープンにしたときに評価していただけるのでは。

【町並川】

川池委員	近鉄にお願いしないといけないことがあると聞いた記憶があるが。
事務局	5 ページの流量配分図で、バイパス水路の下流側で近鉄大阪線を横断する工事が必要となる。近鉄線路の下の工事ということで、近鉄に工事を委託していこうと考えている。

【山田川】

河本委員	国が行う国道 163 号の道路事業はどのようなものなのか。
事務局	現在 2 車線の 163 号は 4 車線化され、河川と並行する箇所については、バイパスの計画となっている。
立川委員長	10 ページに支障となる道路橋の改修方法とあるが、どのようなことが支障になるのか。
事務局	今の現河川にかかっている橋梁は、河道断面を拡幅するということで橋梁の架け替えが必要となってくる。その中でコスト削減ができるような工法を検討していきたいと考えている。
川池委員	道路事業と連携して河川整備を実施することが、コスト削減の要素になっているといったことはないのか。
事務局	国の道路事業の計画立案後、山田川的设计段階において、コスト削減を図れる可能性はあると考えている。

【全体】

立川委員長	4 河川について、事業の必要性等に関する視点及び事業の進捗の見込みの視点から「事業継続」が妥当と判断する。
-------	---

以上